

「高岡を前へ！まちづくりミーティング」意見交換要旨【ウイング・ウイング高岡】

質問

高岡の中心市街地が、商業ではなく居住中心になっていくのではないかという話も聞く。富山市はコンパクトシティ構想を基本に施策を進め、中心市街地の活性化を進めてきたが、本市の中心市街地の活性化について市長はどのような考えを持っているか。

回答

本市の中心市街地は、万葉線があり、城端線、氷見線、またあいの風とやま鉄道の結節点でもある。交通自体も磨いていかなければいけないが、そこに住む理由や賑わいの目的を描いていくことが、中心市街地に求められているものだと考えている。現在、中心市街地を活性化していく計画が新たに国に認可され、新しいことに挑戦する準備をしているところ。

また、御旅屋セリオの活用が大変課題だと思っている。議会や市民の皆さんから様々なご意見をいただいている。市役所だけで考えていても解決は難しいと考えている。引き続き、このまちを市民の皆さんとどうやって盛り上げていくかということを考えていきたい。

インフラの整備もしっかりと進めていかなければいけないと考えてはいるが、財政には限りがある。「こんなまちを目指すからこんな投資をさせていただきたい」ということを、議会をはじめ、市民の皆様にお示しをしながら進めていきたい。

質問

昨年度、米の価格が下落し営農組合は非常に厳しい思いをした。減収で組合員への作業費用の支払いにしわ寄せがいく。コロナなどで米価が下落したことによる影響ではあるが、組合員が意欲をもって米作りをしていくためにも、市の支援や補助がほしい。

また、従事者は高齢で、しかも大型の農機具や機械を使うため、しばしば事故が起きている。米作りの労働時間は年間延べ 3,000～4,000 時間にのぼり、それに 30～40 人の組合員が従事している。農協の労災保険は、掛け金は安いけど補償額も少ない。掛け金はもっと高く、売上高の 1%くらいの金額になってもいいと考えているが、市役所の共済でそのような補償ができないか。

回答

米価下落に関しては、農家の皆さんが持続できるように、また、この新型コロナウイルス感染拡大の影響で、心が折れたり、やめたりということがないように、市としての支援を考えている。

労災保険の話についてはおそらく全国的な課題ではないかと捉えている。先進的な自治体の情報を調べつつ市としてできることを考えていきたい。

質問

農福連携推進事業というものがあると聞いて、とてもいい試みだと思った。障害のある方が農家とマッチングするために一番ネックになってくるのは、送迎など交通の問題ではないかと考えている。そこをどう考えているのか。

回答

障害のある方は、徒歩圏内に仕事がないと就労は難しいという現状は認識している。それも含めて、障害のある方がどうすれば就業できるのかを農家や団体の皆さんと一緒に考えていかなければいけない事業であると考えている。

質問

学校の学童保育は、学校区によって預かる時間はまちまちで、自分が住んでいる地区では17時50分に終了するため、働く親はとても預けにくい。学童保育についての考えを聞きたい。また、プラスでお金を支払うと宿題を見てもらえたり、学童保育の中に習い事があつたりと、付加価値をつけることで、高岡で子どもを預けたいと思ってもらえるような取り組みがあればいい。

回答

市内には、各地域に委託している市の学童保育が各学校にあり、それぞれの地域の状況によって内容が異なっている。公的な学童保育は預かる時間が短くて困るという声もいただいているが、地域では支援員の方々の確保が大変厳しい状況であることも把握している。一方、市内でも民間の学童保育が少しずつ始まっていると聞いている。付加価値の高い学童保育を行政がやるべきなのか、民間にやっていただくのか。仮に、民間がやるならば、市行政としてどのような支援が必要なのか随時見直しをかけながら、より多くの子どもたちが安心して通える学童保育が高岡に広がるように努めたい。

質問

第3次基本計画を見たが立派な計画であった。しかし、この5年間振り返ってみて一体何が変わったか分からない。3次計画のどのようなことを踏まえて、この総合計画第4次基本計画が作られたのか。

人をよそから呼び込みお金を落としてもらう政策が欠けているように感じる。一口に言えば観光の問題であるが、これまでは商業工業中心の高岡市であったが、これからは、生き延びる道は観光しかないのでは。

回答

総合計画は、5年を一つの期間としている。2次計画、3次計画はまちの力をつけるため「都市の強み」と「まちの魅力」を創ることが大きなテーマだった。2次計画期間には北陸新幹線の金沢開業に向けて新幹線に関連したインフラや道路網も整備された。3次計

画では歴史文化に力を入れタイトルを取りに行こうと、重要伝統的建造物群保存地区の3地区の選定や日本遺産の認定など、一つ一つ点として磨いてきた国宝瑞龍寺をはじめとする文化資産が繋がって、それを面として作っていく足がかりができた。これからの交流拡大に向け、「都市の強み」と「まちの魅力」を活かし、観光に力を入れ、交流人口、関係人口を増やしていこうという視点で、4次計画を策定したところである。

高岡の未来を作っていく上で観光は大事だと思っている。これまで、金沢や富山との都市間競争があった。一方で、新幹線が敦賀まで延伸して、新しく駅が繋がるところが注目され、新高岡の存在が薄れるのではないかという危機感を持っている。だからこそ、延伸する先の例えば、小松市と連携して、小松に行った後に高岡に来てもらう、高岡に行ってから小松に行ってもらう。また、金沢に行った人が高岡に寄りたくなる施策を今年度実施したいと考えている。これまで、高岡に来て高岡からまたお住まいの地域に帰ってもらう完結型が主流だったが、新幹線が、いわゆる飛越能の連携というものを与えてくれており、さらにそれに磨きをかけていく時代に来ていると思っている。新幹線延伸を見据えながら、様々な観光施策を、打っていかなければいけないと考えている。

質問

若者の声を聞き将来の定住・Uターンにつなげるという企画について、なぜ今回は高岡高校が選ばれたのか。若者の中には、生きづらさを抱えている方が多くいるように思う。高岡市には「ひとのま」という場所もある、そういった場所の子たちの声もこういう企画の中で聞いているのか。

回答

高岡高校には探求科学科があり、カリキュラムの中ですでに高岡の課題を子供たちが自ら選び、調査研究し、まとめて報告している授業がある。学校から市との連携について相談を受けて実施したもので、若者の意見を直接、聞かせていただく機会となった。高岡向陵高校でも授業をする予定であり、子供たちが市や行政に対して様々な提案ができるような環境を高校サイドも整えてくださっており、我々も聞く姿勢を持って、向き合っていくことが重要だと考えている。また、中学生も小学生も大切な未来を担う子供たちである。年齢に関係なく、次の世代の方々の声が聞けるような環境を整えて参りたい。

「ひとのま」に限らず、大人の声だけではなく、子供たちの声も聞く環境を作っていかなければならないと考えている。

質問

千人規模を集客できる場が高岡に必要ではないか。イベントがあるとその場所だけが活性化するのではなく周辺も活性化する。旧市民会館は高岡駅からも徒歩圏内で、カーボンニュートラルの観点からも良い立地である。徒歩の場合は駅前の商店街を通ることになる

ため、駅周辺の活性化が期待できる。高岡を活性化する一つ的手段として、市民会館の復活を今後の計画の中に入れ検討してほしい。

回答

県の事業ではあるが、高岡テクノドームで、1,200 人規模のイベントができる別館の整備を予定している。別館整備後の高岡テクノドームでは何ができて、何ができないのか、しっかりと見極めなければならない。高岡テクノドームは新高岡駅のそばにあり、城端線もあり、バスもある。それでも高岡に市民会館が必要な場合は、当然検討していかなければいけないと考えているが、まずは県と連携しながら、高岡テクノドームの別館の整備を進め、より市民のためになる施設となるように努める。

また、高岡文化ホールの扱いも、しっかりと見極めなければいけないと考えている。県と市が連携しながら動いていくことが今の時代には必要である。それぞれが高岡に必要な施設となるように求めてまいりたい。

先ほどカーボンニュートラルにも触れていただいたが、歩いていけるまち、また、公共交通でいけるまちを描いていかない限り、この大きな目標であるカーボンニュートラルは達成できないと考えており、鉄軌道をどう守っていくかも、大変重要なまちづくりの指標になると考えている。

質問

高岡の観光資源は非常に豊富で、私は日本では誇れる地域だと考えている。高岡には世界に誇れる景勝地がある。皆さんご存知だと思うが、海上から 3,000 メートル級の日本アルプス山脈が見える雨晴海岸は世界 3 大景勝地と言われた。そのうち、唯一、雨晴海岸の景勝地だけが残っている。このように素晴らしい観光資源が高岡にはあるのだから、もっと発信すべきと考えている。

回答

確かに私も雨晴海岸からの景色は世界一だと思っている。一方で、我々だけが世界一だと言っている人も来ないので、外の人たちに世界一だと認めていただける観光地にしていかなければいけないと考えている。

いかにして、全国、世界中に向けて発信を増やしていくか。世界中に向けて、また市民の皆さんに向けて、市が今やっていることが伝わるような環境を作っていき、それが、交流人口、関係人口の拡大に繋がるように取り組んでまいりたい。

質問

城端線と氷見線の L R T 化について、高岡市として今どういった状況か、現状の説明をお願いしたい。

回答

城端線と氷見線が、それなりの乗車人数はあるものの経営が厳しいことを受け、ＪＲ西日本から提案があり、ＬＲＴ化の検討を行っている。

これまでも、城端線の増便試行やラッピング電車による集客、あるいは観光列車（べるもんた）を運行するなど、沿線４市（氷見市・砺波市・南砺市と高岡市）で連携し、利便性や集客力の向上に向け検討を進めてきた。ＬＲＴ化は鉄道の運行形態そのものが変わってしまうため、現在、ＪＲとの交渉のノウハウがある県が事務局となって、沿線４市が参加する検討会を開催している。ＬＲＴ化した上で、高頻度の運行をした場合の事業費等の調査を進めているところ。

今のところ、城端線、氷見線ともに１日の乗客は２千人を超えているが、今後、人口が減っていくと予断を許さない大変厳しい状況になっていく可能性がある。まずは、今ある既存の鉄道をたくさんの方々に利用していただきながら、公共交通と密接に関係したまちづくりを進めていくことが重要であると考えている。

呉西圏域で連携して、いかに人口を増やしながら、未来の公共交通のあり方を描いていくのか、ベクトルの向きを合わせていくことが、私に課せられた役割。これらは県の調査も待ちながら同時に進行していかなければいけない課題だと認識している。

質問

少子化や高齢化、人口減少の問題は、結婚する人が減少し生涯独身を貫く人が増えていることが根本の原因であると捉えている。結婚し家庭を持つ人を増やすための施策について、どう考えているか。

回答

総合計画の説明の中で子供の数を増やしたいという話をしたが、結婚をしやすい環境づくりも重要だと考えている。高岡の場合、当然高岡だけで結婚していただけるということはなかなか少なく、広くとらえるべきということで、高岡地区広域圏という枠組みの中で、婚活を支援する事業を実施している。また、民間でも婚活支援のイベント等が実施されている。今年度から民間の方々が取り組む出会い・交流イベントにも、市として支援する制度を運用していく。１人でも多くの方が結婚という選択をされる高岡にするため、引き続き努力してまいりたい。

以上